

22211148 小林寿稀也

学問のすすめ 福沢諭吉

第8編男女間の不条理、家族間の不条理

この編を選んだ理由。1, この編の最初に「自分の考えで他人を縛ってはいけない」と書いてあり、その言葉に共感できたから。2, ここに載っている問題などへの自分の意見と福沢諭吉の意見と比べることが簡単にできると感じたから。

大きく5つに分類される。1, 人間の性質 2, 他人の意思にしたがう不条理 3, 男尊女卑の不条理 4, 妾の風習を批判する 5, 孝行に名を借りて

1, 人間の性質。人間の身体は、すべき仕事をするようにできていると説明している。

また、人間にはそれぞれ身体、知恵、欲、良心、意思の五つがある。人間の権利は、人間であることの分限を間違えずに世間を渡れば、他人にとがめられることもなく、天に罰せられることもないこと。分限とは、自分もこの力を使い、他人もこの力を使いながら、お互いにその働きを妨害しないこと。

このような要約を2, 3, 4, 5, も同様に行う。

(一枚に収まりきらないため、省略)

感想

個人的に、この学問のすすめを読むときに現代と比べて考えるというのをしているが、男尊女卑は昔に比べて、考え方が変わってきていると思うが、その考え方が完全になくなっていてとは言えない。自分は現代に生きているからここに書いてある昔の人の考えはおかしいと感じるのは当然だが、その時代に生きていた福沢諭吉は周りの考えに左右されず自分の意見を貫いているところは見習うべき姿だと感じた。